

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577100302		
法人名	社会福祉法人慈光福祉会		
事業所名	グループホーム太陽の家		
所在地	山口県周防大島町久賀5377-1		
自己評価作成日	平成24年7月23日	評価結果市町受理日	平成24年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 24年 8月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温暖で海も山も近くにあり、自然環境に恵まれている。気候の良い時には、ホーム周辺のみかんが成長していく様子やきれいな花を見ながら散歩をしている。特養との併設のメリットを活かし、行事等については共同参加が可能である。室内も職員も明るく、ホームの周りには畑や花壇があり、玉葱や芋を植えて収穫の喜びを分かち合ったり、花を育てて季節感のある生活を楽しんでいる。また、隣接地に山中クリニックがあり、医療面も充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関を利用者のかかりつけ医とされ、定期的な往診や他の病院への受診の支援をされており、緊急時や重度化の時の支援など、医師と連絡を密に取られ、利用者や家族の安心につなげておられます。利用者は昼食後、居室に入って休まれたり、テレビを視聴されたり、円卓を囲んでおしゃべりをしたり、一人ひとりが好きなことをしてくつろいで穏やかに過ごされています。職員間のチームワークがよく、利用者と職員の和やかな関係を保ちながらも利用者に対して年長者として敬意を払って対応しておられます。食事は法人の配食を利用しておられますが、毎日の朝食と週2回の昼食は事業所で食事づくりをされています。配食の時も、ご飯を炊いたり、汁物をつくるなど、調理の音や匂いがして、利用者が食事づくりを楽しむことができるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示して実践につなげている。	「職員と利用者、家族の太い絆、陽気な笑顔、のんびり過ごせる我が家のように」に「地域との輪を大切により良い関係、開放した施設づくりに努める」という事業所の理念を加え、リビングやスタッフルームに掲示して共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が地域の一員として日常的に交流できていない。	選挙の期日前投票に出かけた時や散歩時などに地域の人と会話を交わしたり、町の敬老会に参加する人がある他、併設の特別養護老人ホームである納涼祭への参加、ボランティア（ゆる体操、三味線、フラダンス、ハーモニカ）の来訪、中学生や高校生の体験学習や実習、敬老の日に小学生からの手紙が届くなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けては活かせていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で項目を分担し、実施している。また、評価結果については改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解した上で、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて、地域との関わりについて職員会議で話し合い、できることから改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、現状を報告し、頂いた意見をサービスの向上に活かすようにしている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や行事、取り組みなどについて報告し、意見交換している。避難時の通路の障害物の問題について意見があり、改善方法を検討するなど、意見をサービスに生かしている。	・地域メンバーの拡大

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町との連絡は密にはできていないが、相談したり、助言は受けている。ホーム便りを作成した時には持って行っている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加がある他、支所の担当課とは電話や出向くなど連絡を取り合っている。相談をし、助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について苑内研修等で学び、しないケアに取り組んでいる。玄関は昼間は施錠せずに安全のためチャイムが鳴るようにしている。	苑内研修で学び、職員は身体拘束について理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、その場で注意したり、職員会議で話し合っている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修で学ぶ機会を持ち、全職員が防止に努めている。また、会議で話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、それを活用する機会はいまはない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問を聞き、十分な説明を行うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情の窓口及び第三者委員会を明示し、苦情解決の手続きを明確にしている。	電話や面会時、運営推進会議時、家族会などで、家族の意見や要望を聞き、利用者の散歩についてなどの要望が反映できるように努めている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め家族に周知している。意見箱の設置をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行い、全職員の意見や提案を聞き、反映させている。	月1回の職員会議(3時間)の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常的に気付きをメモして管理者に渡し、気軽に意見が言えるようにしている。ケアの仕方についてや勤務体制の見直しなどの職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は他業務で多忙なため、管理者に任せており、勤務状況の把握はできていないように思われる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者にかわり、管理者が職員1人1人のケアの実際と力量を把握し、研修を受ける機会を確保している。	外部研修は段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。苑内研修(年2回)に職員は参加している。内部研修は実施していない。	・計画的な内部研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩柳地区の研修で他事業所との交流研修をして学び、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に話を聞き、不安な事、要望等に耳を傾け本人の安心確保、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から話を聞き、困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け、信頼関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族としっかり話し、その時必要としている支援を見極める。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、話をしたり、協力し合い、いろいろな習慣を教わったりしながら暮らしを共にする家族のような関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加していただいたり、面会に来られた時には様子を話している。また月に1回近況報告を送って家族との絆を大切に、共に本人を支えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行く事はあまりできない。馴染みの人には自由に訪問して頂き、楽しく過ごせるように支援している。	以前一緒に働いていた人や、知人、友人、身内の人などの来訪がある他、家族の協力を得て、墓参りや、外食、馴染みの美容院の利用、地区の敬老会への参加など、関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、丸テーブルの席順を工夫して利用者同士が関わり合い、支え合えるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係性を大切に、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いを傾聴し、意に添えるよう職員全員で努力している。	センター方式のシートを活用する他、利用者から聞きとった思いにつながる言葉を個人記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や様子から汲み取って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにセンター方式を取り入れ、家族の方にも記入をお願いしている。また本人との日常の会話の中からこれまでの生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の現状を把握し、その日の状態で可能な力を発揮できるように支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度サービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作り、家族には介護計画書に希望事項などを記入してもらっている。	サービス担当者会議を開き、実施しているサービスを中心に介護計画を作り、3ヶ月に1度見直しをしている。モニタリングは行っていない。	・モニタリングの実施
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫、実践、結果については職員会議で情報を共有し、実践や見直しに活かしている。日々の様子についても記入している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにその都度対応できる様に心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゆる体操の指導に毎月ボランティアで来てもらっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が主治医となっており、内科、整形外科の往診が週1回ずつある。また看護師がおり、体調の変化をつかみ、他の科の受診についても必要に応じて行っている。	利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。定期的な往診がある他、緊急時の対応や他科への受診の支援など適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	新たに外傷が見つかったり、体調の変化が見られたりした時は、すぐに看護師に伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院側に利用者の状態を説明している。またその後は見舞いに行ったりして回復の状態を知り、退院支援に結びつけている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事を考え、現在ほとんどの入所者に併設する特別養護老人ホームの入所申し込みをして頂いている。	重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に指針を手渡し家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族や医師と話し合い、入院や法人の他施設への移設の支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒等の事故が起こった時は事例記録を作成し、原因を探し、対応策を話し合っている。服薬介助の前は薬を再々確認し、誤薬を防ぐように努めている。行方不明を防ぐため、玄関にはセンサーを取り付けている。応急手当等の定期的な訓練は行っていない。	ヒヤリはっと記録表に記録する他、事故の事例記録を作成し、会議で対応策を検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練は実施していない。	・初期対応や応急手当の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特別養護老人ホームと合同での避難訓練とホーム独自の避難訓練を行っているが、地域との協力体制はできていない。	併設の特別養護老人ホームが年2回実施している火災時避難訓練に参加する他、事業所独自で年1回、夜間を想定した避難訓練を実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話に合わせて会話をし、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。また同じ事を繰り返し話される入所者や事実と異なる話をされる入所者に対して無視や否定をしないように気を付けている。	利用者に対して敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように一人ひとりに合わせた支援に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話をあまりされない入所者に対しては、こちらから積極的に話しかけ、本人の希望を少しでもきくことができるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が時間に追われていることが多く、職員側の都合を優先してしまうことがあるが、入所者の訴えにできるだけ早く対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない人に対しては、髪をとかしたり、おしぼりを用意し、自分で顔を拭いてもらったりしている。また化粧水が必要な人に対してはそれを揃えている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	火曜と木曜の昼食は入所者から希望を聞いて献立を作り、ホームで調理をしている。下拵えを手伝っていただき、食事前後のテーブル拭きをお願いしている。	毎日の朝食と週2回の昼食は事業所で食事づくりをしている。併設の特別養護老人ホームからの配食利用時も、ご飯と汁物は事業所で作り、温かいものを提供している。利用者は、野菜の下ごしらえやテーブル拭き、箸配りなど出来ることをしている。月1回の喫茶や、おやつづくり(どら焼き、ホットケーキなど)の他、年に1回、外食するなど、食べることが楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立による食事により栄養のバランスを取っている。さらに食事、お茶の時間に十分水分を摂って頂き、あまり飲まれない方には、飲みやすくなる工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをしたり、歯ブラシを手渡したり、その人に合わせた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗、おむつの使用をできる限り減らせるように個々の排泄パターン、シグナルの把握に努め、声かけ誘導し、トイレでの排泄を促している。歩行の不安定な方は夜間ポータブルトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多めにしたり、腹部マッサージをしたりと個々に応じた予防をしているが、薬に頼っている人が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の体調や希望に合わせて入浴が楽しめる様に支援している。入浴したくない人には声かけのタイミングなど工夫している。	入浴は1日おきに13時から15時まで可能で、利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない利用者には、時間をずらしたり、声かけに工夫して、入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、睡眠に乱れのある人は原因究明、対応の検討を行い、支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、個々に応じた服薬の支援をしている。症状の変化については主治医に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下拵え、洗濯干し、洗濯たたみ、テーブル拭き、トレイ拭きなど個々の力を活かし、活躍できる場面作りをしている。	ぬり絵、書道、玉入れゲーム、風船バレー、お手玉、輪投げ、魚釣りゲーム、ボール転がし、縫い物、編み物、読書、テレビ視聴(歌番組、相撲など)、DVD視聴(納涼祭などの行事)、外出などの楽しみごとや、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、野菜の下ごしらえなど一人ひとりの活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など戸外にでたり、花見、ドライブなどの支援は行っているが、1人1人の希望にそって戸外にでかけられていない。	近所の散歩や季節ごとの花見、ドライブ、年1回、家族会の親睦会(外での食事会)、馴染みの美容院や墓参りに出かけるなど家族の協力を得て、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を1人の方のみ所持しているが、大きなお金は金庫に預かっている。その方以外は個々に所持することは難しいので家族より預かり、金庫で保管している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をすることはないため、家族などからの電話の応対がスムーズにいくように支援している。また、年に1回年賀状を出す支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花や季節に採れた野菜を飾っている。また、季節ごとに壁画を入所者と一緒に作り、壁に飾っている、共用の空間に不快な刺激がないように配慮している。	玄関やリビングに季節の野菜や果物、花などを飾り、壁には行事の写真や利用者の作品、季節に合わせたものを飾り、季節感を感じることができるように工夫している。畳のコーナーでは、洗濯物を畳んだり、横になって休めるようにしている。リビングの円形テーブルを囲んで食事をしたり、お茶を飲んだり、ゲームをしたり、おしゃべりをするなど、楽しい時を過ごせる空間となっている。温度、湿度、明るさ、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂横に居間があり、座ってくつろぐことはできるが、居間に上がれる方は少ない。食堂のテーブルが丸いので、全員の顔を見渡す事はできるが、ほとんどの方が自分の隣の方と話をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族に家で使い慣れた物を持ってきていただくようにしている。	使い慣れた物を持ち込んでいる。位牌を置いたり、家族の写真やぬいぐるみ、自分の作品を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー、手すりがあり、安全に生活が送られるようになっている。また歩行の悪い方には歩行器を使用していただき、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 太陽の家

作成日：平成 24年 9月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	メンバーが5名しかおらず、少ない。	メンバーを1～2名増員する。	地域の方に声をかけて1人でも多くメンバーの拡大をする。	1年
2	14	内部研修をしていない。	計画的な内う研修の実施。	がいふけんしゅうをしたときは復伝をし、職員からどんな研修をしたいか聞き、3ヶ月に1回内部研修を行う。	1年
3	27	モニタリングを実施していなかった。	モニタリングの実施。	3ヶ月に1回モニタリング用紙を作り、モニタリングを実施する。	即実行
4	35	食対応や応急手当の定期的な訓練を実施していない。	定期的に訓練する。	まずは、苑内研修で初期対応の講義をしてもらい、ホームの内部研修で実際に体験してみる。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。